

# 2026 ズバリ! 的中



# 世界史

## 北海道大学

### エンコミエンダ制を説明する論述問題がズバリ的中

#### 入試問題

前期日程 総合入試(文系)、学部入試(文)  
大問3 問5(ア)

3 次の文章を読み、問いに答えなさい。

感染症の流行と拡大は、人類の歴史の転換期において決定的な役割を果たしてきた。

ペストは早い時期からユーラシア大陸全域で流行を繰り返していた。14世紀のペストは「A」と呼ばれ、東西交易路を通じて中東へと広がり、その後ヨーロッパで流行して人口の3分の1が死亡したとされる。それはまた中世ヨーロッパの封建社会にも大きな影響を及ぼし、荘園制を動揺させていった。またユダヤ人がカトリック教徒の井戸に毒物を投入したことが疫病の原因であるとの流言が広められ、ヨーロッパ各地の都市ではユダヤ人の虐殺が発生した。

大西洋世界では、15世紀末からヨーロッパとアメリカのあいだで「コロンブス交換」と呼ばれるヒトやモノの移動が生じ、感染症も海を越えて拡大した。アステカ王国の滅亡や「B」の侵略によるインカ帝国の滅亡など「コンキスタドル(征服者)」による征服活動は、スペイン人がもたらした天然痘などの感染症がアメリカ先住民の人口を激減させた結果であり、天然痘がアメリカ大陸の植民地化の最も重要な要因となったと言われている。

19世紀には、世界人口の増加とともに都市化が進み、技術革新による交通手段の発達に支えられ貿易や移民も増大した。これによって感染症の伝播も加速し、感染のリスクも増大した。コレラはもともとインドのベンガル地方の風土病であったが、1817年に世界規模での感染爆発を起こした。とくに産業革命期のイギリスでは、首都ロンドンや綿紡績で発展した「C」などの都市において労働者階級が劣悪な環境のもとで生活しており、コレラが蔓延して多数の死者が発生する事態となった。

20世紀になると、第一次世界大戦の末期に「D」と呼ばれるインフルエンザが大流行した。このインフルエンザは、1918年3月にアメリカ国内で最初に流行し、大西洋を越えて米軍の兵士や物資が大量に動員されたことによって、ヨーロッパ戦線のフランスにもたらされ、感染の被害が拡大した。1918年11月に停戦の協定が結ばれると、今度は復員する兵士によって世界に拡大した。被害が最も深刻だったのはインドであり、飢饉で栄養状態が悪化していたことで病気の抵抗力が弱まっており、1850万人が亡くなったとされている。

問5 下線部(4)について、(ア)スペインの征服者が王室から特権を得て支配地域に導入した「エンコミエンダ」と呼ばれる制度を説明しなさい。また(イ)聖職者としての立場から征服者によって引き起こされた先住民の惨状を告発した人物の名前を答えなさい。

#### 河合塾

大学受験科 完成シリーズ  
完全習得タイム 第8回 大問13(e)

13

(e) スペインによって新大陸に導入されたエンコミエンダ制の内容と結果を100字以内で説明せよ。

#### 高3 1学期 世界史論述 第6講

##### ◆入試問題出題例◆

スペインによって導入されたエンコミエンダ制の特徴を100字以内(句読点等を含む)で説明せよ。(2018 東京学芸大学)

##### 解答例

スペイン人入植者に対して、先住民の保護とカトリック化を条件に土地と人の管理を委託する制度であったが、入植者が鉱山や農場経営に先住民を労働力として酷使することを正当化するものに転じた。